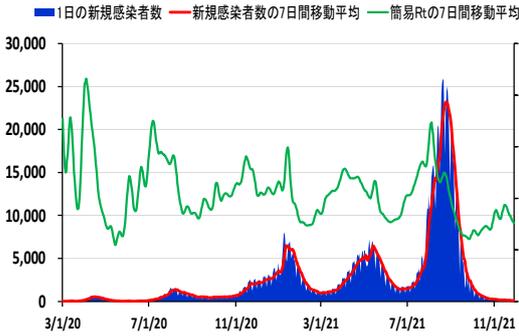


登校回数が増加 対面授業制限レベルを「レベル2」に緩和しました

感染者数の減少を踏まえて、本学では11月15日からすべてのキャンパスで対面授業制限レベルを「レベル2」に緩和しました。これにより登校回数が最大で週3回となり、「密接を伴う演習」についても、制限せず実施できることとなりました。

また、課外活動についても、密接を伴う活動を可能としました。これによりスポーツや音楽等の活動も行いやすくなります。

ただし、人流が戻っており簡易実効再生産数も必ずしも低下傾向とはいえないこと、さらにオミクロン株については不明な点が多く、感染力が強いと考えられていることから、警戒を緩められる状況にはないものと考えています。



感染者数(左軸)は減少しているが簡易実効再生産数(右軸)は1に近づきつつあるので、再び感染者数が増加する可能性が示唆されている。

なお、本学では希望者を対象とするワクチン接種は、2回目まで終了しています。3回目の接種については未確定の事項が多いため、お知らせできる段階にはありません。ただし、他の予防接種から2週間を空けないと接種できませんので、インフルエンザの予防接種は早めに受けておくようにお願いします。

【感染拡大注意報：リバウンド防止7ヶ条】

- 1 家庭内を含む日常生活での感染症対策を徹底しましょう(手指消毒、手洗い、マスク着用、フィジカルディスタンス、換気等)。
- 2 対面による会食は同居している家族等の最小限に限りましょう。学内での食事も、会話を控えて「黙食」に努めましょう。
- 3 自治体のガイドラインや要請に従わない飲食店の利用は避けましょう。
- 4 自治体のガイドラインや要請に協力しない飲食店でのアルバイトは、医療保健系大学の一員として不適切ですので避けましょう。
- 5 ワクチンを接種した後でも「飲み会」や「カラオケ」などリスクの高い行為は避けましょう。
- 6 大学から指示があった場合はもちろん、都県を跨ぐ移動をする場合は積極的に、PCR検査を受けましょう。
- 7 不特定多数の人が参加するイベントへの参加は、主催者側の感染対策を確認し、十分注意しましょう。

そこで本学では、「感染拡大注意報」を継続することとしました。年末年始を控えて様々な会食の機会があると思えますが、同居している家族等の最小限に限ること、特に忘年会等の「飲み会」や「カラオケ」は避けるようお願いいたします。

バーチャルリアリティ

本学の遠隔授業は、感染拡大防止のみを目的としたものではなく、**「先取り授業づくり」**を指した取り組みの一環です。ここでは近年になって社会に普及してきた様々な技術が活用されています。

例えばバーチャルリアリティ(VR: Virtual Reality)という技術があります。これは仮想現実と訳されることが多いですが、実際にはもう少し奥深いものです。日本バーチャルリアリティ学会によれば、**「見かけや形は原形と異なっているが、原形と同じく本質的な部分があつてそれを備えているもの」がVR**であるとされており、よって完全に仮想空間のものとはVRとは呼べないことになりました。

この「本質的な部分」という考え方は、授業にVRを採用する際に非常に重要なところなのです。

本学では、今春「救急救命VR」というシステムを採用しました。このシステムでは救急のような生命の危機を伴う切迫した場面で状況を把握して判断する過程を、VRゴーグルなどを通して再現できます。

ここでは状況把握の困難さが「本質的な部分」の一つです。自由視野移動できる機能はこの場面での学修とも合致します。このように、VRを有効活用するには、学修目標とシステム機能の摺り合わせが不可欠であり、現在はICT活用授業支援員に指名された教員などが一部の授業で試行錯誤し、よりよい使い方を模索しています。



写真提供：株式会社ジョリーグッド

学生とともに創る遠隔授業

意見・提案にお答えします

意見・提案：対面かオンラインを選択制にしてほしい。他大学はそのような選択ができます。「1コマの授業を受けに行くためにそれ以上の時間をかけて通学するのは、かなりの負担です。せめて、まとめた日に実施してほしいです。」

お返事：時間割については教室数等の制約で、必ずしも学生の皆さんが通いやすい形になっていない面もあると思います。少しずつ改善を図っていきます。

さて、同じ授業の中で対面か遠隔を学生が選択できる「ハイフレックス方式」は、後期から各学部や学科の判断で採用できるよう学内ルールを改正しました。まだ部分的な実験にとどまっていますが、皆さんからの要望が強ければより実現に向かいやすくなりますので、ぜひ引き続き前向きな意見・提案をお願いします。

(下のQRコードから)

